

「火の山浅間」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

浅間山は有史以来、繰り返し噴火をしている。江戸時代の「天明の大噴火」は多くの死者を出したので有名だ。21世紀に入ってから、2004年、2008年、2009年、そして今回の2015年に噴火を起こしている。いずれもごく小規模～中規模なもので、死者や大きなけが人は一人も出ていない。



「火山灰で真っ白な軽井沢駅」 2004年9月17日

2004年9月の一連の噴火は、浅間山としては中規模で、山麓のキャベツ畑を始め、軽井沢町や、100キロ離れた場所にまで火山灰を降らせた。しかし、一番激しかった9月1日の噴火は、悪天の夜間だったので、噴火の瞬間を明確にとらえた写真は存在しない。

2009年2月2日の噴火は、気象庁が確実な予報(予知といっても良い)に成功した噴火として、教科書にも載っている。この噴火も夜間だったが、幸いその晩は快晴だった。しかし、深夜の噴火だったこと、予報から噴火まで非常に短時間だったこともあり、地元で撮影した方はほとんどいなかった。私は、北軽井沢のデジタル一眼レフ監視カメラを、インターネット経由で東京から操作し、決定的瞬間の撮影に成功した。

まさに「火の山」が本性を現した一瞬である。弾道を描いて落ちる火山弾も美しい。この写真は、日本各地の新聞、雑誌、それに理科の教科書にも掲載された。



「浅間山噴火の瞬間」 2009, -2, -2 北軽井沢

撮影 ; C. Tanaka